

感染レベルの引き上げ？を見据えた対応

学校だより第70号で、感染防止対策の新たな対応マニュアルの更新点についてお知らせしたばかりですが、矢継ぎ早に福島市教育委員会から防止対策の徹底についての通知が届きました。通知では「県からの通知では、学校対応はこれまで同様『レベル1』を継続するとあるが、福島市では感染状況を踏まえ、感染防止策を強化する必要がある。各学校は、今年中（～12月末）は『レベル2』として対応をお願いします。」といった内容でした。

また、昨日の新聞では「県内1日最多28人感染」と1面大見出しでの記事があり「県が14日に感染者発生ステージ1からステージ2に悪化している判断をしたこと、さらに拡大傾向が収まらず、15日には病床使用率がステージ3の指標の一つを超えたため、ステージ3への移行への検討をしていくこと」が報道されていました。感染拡大は全く勢いが衰えず、12月1ヶ月の感染者数は126名どころか半月を迎えた15日時点で157人と激増しています。

ステージとかレベルとか、いろいろな感染状況を表す指標があるのですが、学校では、下表の各レベルでの行動基準に沿って判断しています。

新しい生活様式を踏まえた学校の行動基準			
地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動（自由意志の活動）
レベル3	できるだけ2m程度（最低1m）	行わない	個人や少人数での感染リスクの低い活動で短時間での活動に限定
レベル2	1mを目安に、学級内で最大限の間隔を取る	感染リスクの低い活動から徐々に実施	感染リスクの高い活動を停止 感染リスクの低い活動から徐々に実施し、教師等が活動状況の確認を徹底
レベル1	1mを目安に、学級内で最大限の間隔を取る	適切な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施

「感染リスクの高い教科活動」とはどんな内容かという、参考例として

- ① 長時間、近距離で対面形式となるグループワーク及び近距離で一斉に大声で話す活動など（各教科共通）
- ② 理科での、近距離で活動する実験や観察
- ③ 音楽での、室内で近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハモニカ等の管楽器演奏
- ④ 美術での、近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動
- ⑤ 技術家庭での、近距離で活動する調理実習
- ⑥ 保健体育での、密集する運動や近距離で組み合ったり接触する運動

の6つが示されています。

例示された教科活動に共通するのが、近距離や密集、対面、接触、大声や教材・文房具の共有等、感染リスクを高める環境や行動が伴う活動ということです。レベル2の身体的距離を表で見ると「1mを目安に学級で最大限」という基準がありますので、2年生はやや短めかもしれませんが1m程度の身体的距離を確保して行っていくことや、理科室等のシールドを活用し、もちろん100%マスク着用で、対面しても飛沫が飛ばない環境での学習活動を実施して、感染予防を徹底して行きたいと考えます。

また、通知では、部活動について、

- ① 換気、活動前後の手洗いの徹底と、密集したり接触を伴ったりする運動や、呼気が激しくなったり大声を出したりする運動は行わないこと
- ② 他校との合同試合や練習試合等は見合わせる

の2項目が加えられました。部活動では、残念ながら練習試合等は実施できない状況ですが、手洗い・消毒を徹底し、身体的距離を取り接触・密集を避けたメニューでの短時間の練習を中心に感染予防をしっかりと行いましょう。

学校ではこの内容を受け、できる限り感染予防策をとっていきます。各ご家庭でも、帰宅時の徹底した手洗いでウイルスを家庭内に持ち込まない対策や、早寝早起き朝ご飯の徹底で免疫力を高めるなどして感染予防をお願いします。

除雪ボランティアに感謝

16日からの大雪で、通学・通勤が大変です。週末も、まだまだ油断できません。そんな中、本校では、たくさんの生徒が、雪まみれになりながらも率先して伝統の除雪ボランティアに取り組む姿がみられました。ありがとうございました。

